



owner's manual



MOTIVE POWER

お客様へ

この度は PGO SCOOTER TIGRA168R をお買上げ頂きまして
誠に有難う御座います。

商品に添付されている取扱説明書は英文で作られております。

従って、簡単では御座いますが、機能及び取扱い方法について説明している箇所を
日本語にてご理解頂ける様、本書を作成いたしました。

乗車される前に必ず本書をお読み頂けます様お願い致します。

本書内で TIGRA168R を機種記号 AF-180BIE と、4stroke エンジンを(4T)として標記されます。

不具合等でお困りの場合は、お買い求めの販売店様へご相談ください。

弊社へ直接お問い合わせ頂いてもお答え致しかねます、予めご了承下さい。

PGO 日本代理店

**NOVEL
FORCE**

内 容

安全に運転する為の注意点・・・2	乗車する際の注意事項・・・26
各部名称・・・3	エンジンを始動・・・27
車体識別・・・4	暖機運転・・・27
シャッターキー操作方法・・・5	スクーターに乗るにあたって・・・28
メーターインジケーター・・・6～12	ブレーキ操作・・・28
ハンドルスイッチ操作方法・・・13	エンジンの慣らし運転・・・29
ハンドルロック・・・14	駐車・・・29
シートロック・・・14	定期点検・・・30
フューエルタンクキャップ・・・15	定期点検スケジュール・・・30・31
盗難防止スイッチ・12V電源・・・15	エキゾーストコントロールシステムのメンテナンス・・・32
ラゲッジボックス・・・16	エアクリナー・・・33
アイドルストップシステム・・・17	プラグの点検・・・33
ヘッドライト光量コントロール・・・18	ギヤオイル交換・・・34
運行前点検項目・・・19	フロントブレーキ点検・・・34
ブレーキ・・・20	ブレーキフルード点検・・・35
フロントブレーキ・・・20	フロントフォーク点検・・・35
ブレーキフルード・・・20	ヒューズ・・・36
冷却水量点検・・・21	バッテリー・・・36
エンジンオイル量点検・・・22	主要諸元・・・37
エアクリナー・・・23	定期点検記録簿・・・38
タイヤ・・・24	配線図・・・39
スロットルグリップ・・・25	保証書・・・40・41
スイッチ類・・・25	保証登録書・・・42
燃料・・・25	
触媒・・・26	

安全に運転する為の注意点

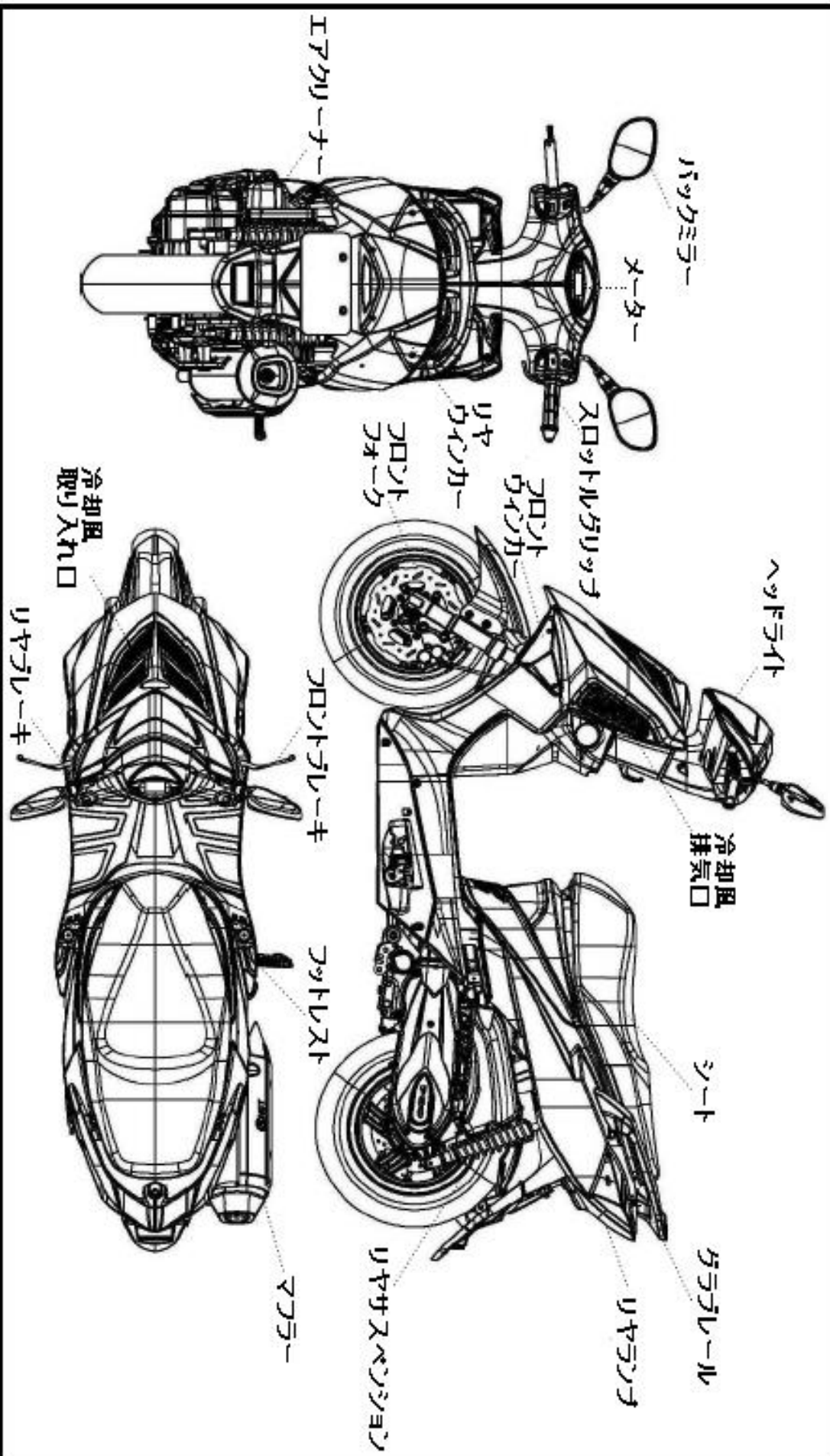
▲ 警告

運転時は十分な余裕を持ち、以下の用件に留意する必要があることを予め了解下さい。

安全運転のために

- 1 運行前点検は必ず実行し、修理が必要であれば修理をしてから運行してください。
- 2 多くの事故は経験の少ないライダーに関係します、慎重に運転しましょう。
- 3 乗車時は運転操作を妨げない服装で、明るい色の物を着用しましょう。他の運転者の死角に入らないようにしましょう。
- 4 交通法規を遵守してください。過度な速度は事故につながります、速度は控えめにしましょう。
- 5 他の交通に迷惑を掛けない様に気を付けましょう、交差点や駐車場の出入り口等は特に注意が必要です。
- 6 乗車時はハンドルをしっかり持ち、足はステップボードに乗せ、正しい姿勢で乗りましょう、後席に乗車させる人はステップに足を乗せ保持してください。
- 7 エンジン을 掛けたまま車両から離れないようにしてください。
- 8 悪路を走行する時はスピードを落とし、強い衝撃を受けないよう操作してください。

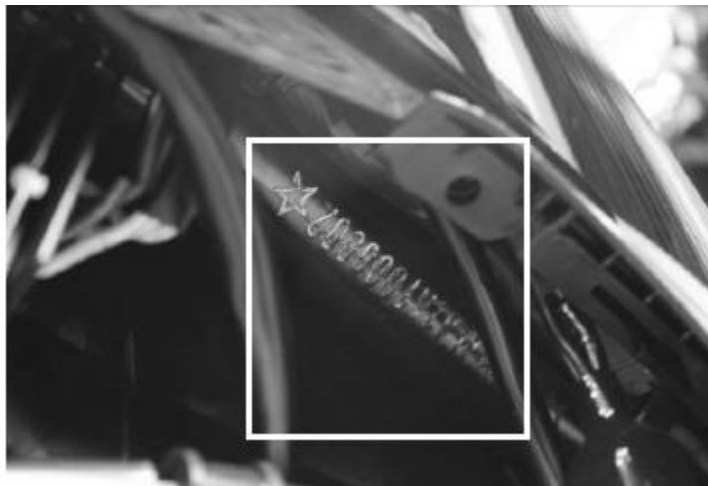
各部名称



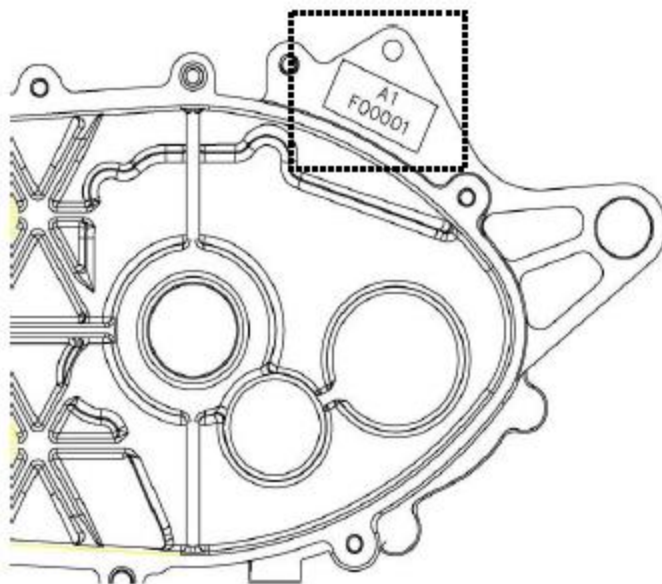
車体識別

車体を識別する為にフレームナンバーとエンジンナンバーがあります。

1. フレームナンバーは右側のサイドカバー内のフレームに打刻されています。



2. エンジンナンバーはベルトケース後端部に打刻されています。



※ フレームナンバー及びエンジンナンバーは部品の注文時に必要なだけでなく、盗難等に遭われた時に車体識別の為に必要です、メモなどにして保管されることをお勧めいたします。

シャッターキー操作方法

1. シャッターの閉め方。



開いている状態



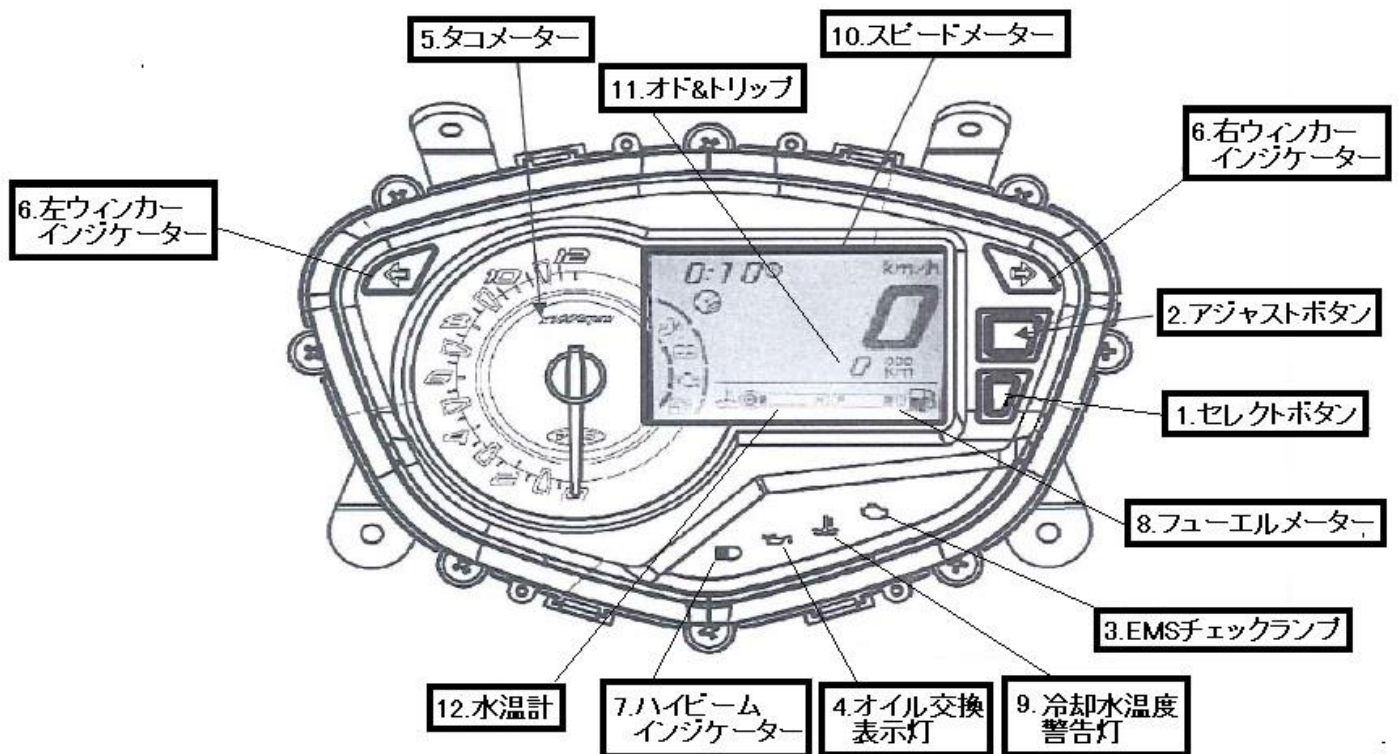
シャッターを指で閉める

2. シャッターの開け方。



握り部分の突起部を鍵穴下の溝にはめて時計回りにまわすと開きます。

スピードメーターインジケーター



1. セレクトボタン

2. アジャストボタン

3. EMS チェックランプ EMS の状態を点灯状態で表示します。

4. オイル交換表示灯 (1,000 km毎に点灯します)
オイル交換時期に点灯します、オイル交換後表示解除を行ってください。(解除方法はP7 参照)

5. タコメーター 現在のエンジン回転数を表示します。

6. ウィンカーインジケーター 作動している側のインジケーターが点滅します。

7. ハイビームインジケーター (ブルー) ハイビームとパッシング使用時に点灯します。

8. フューエルメーター ガソリン残量を表示します1 目盛りになったら直ちに給油して下さい。

9. 冷却水温度警告灯

冷却水の温度が高温になったときに点灯します、点灯した場合は直ちに走行をやめてエンジンを止めて下さい。エンジンが十分冷えてから再始動して下さい。
再度この警告灯が点灯する場合はお買い求め頂いた販売店または PGO SCOOTER 取扱店にご相談下さい。

10. スピードメーター 速度を表示します。

11. オド&トリップ 積算走行距離(オドメーター)と区間距離計(トリップメーター)の表示です。

12. 水温計 現在の水温を表示します。

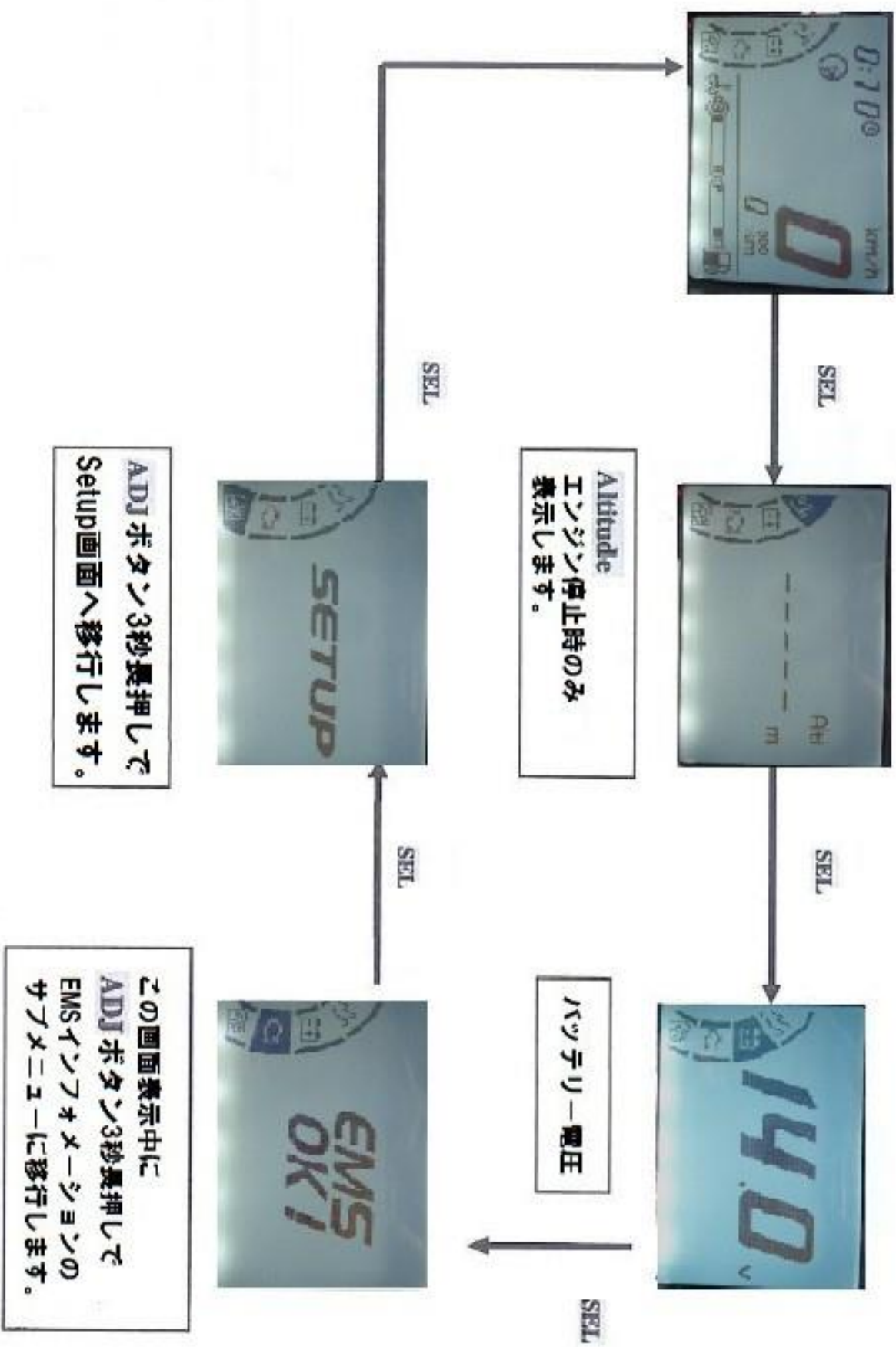
※デジタル表示部は多機能を装備しています、次ページ以降の操作方法を参照願います。

機能 モード	key	表示	SEL.	ADJ.	結果
ベーシックモード	ON	main menu	押す		Altitude
	ON	Altitude	押す		voltage
	ON	voltage	押す		Engine check
	ON	EMS OK !	押す		Setup
	ON	Setup	押す		Mileage menu
速度表示 (ODO 表示状態で)	ON	km		3 秒長押し	mph
		mph		3 秒長押し	km
(ODO)/ (TRIP)/ (fuel consumption) 切り替え	ON	ODO		押す	TRIP
		TRIP		押す	Oil
		Oil		押す	⌘ (km/l)
		⌘ (km/l)		押す	ODO
Reset(TRIP)	ON	TRIP		3 秒長押し	リセットされます
高度計	ON	Altitude			エンジン停止時のみ表示します
オイルインジケータリセット (OIL 表示状態で)	ON	点灯		3 秒長押し	点滅
		点滅		3 秒長押し	消灯
キャンセル (上段操作のキャンセル)	ON	点滅	押す		点灯
Setup	ON	Setup		3 秒長押し	Clock
時計合わせ	ON	時間表示点滅		押す	任意数値に調整
	ON	時間表示点滅	押す		分表示点滅
	ON	分表示点滅		押す	任意数値に調整
	ON	分表示点滅	押す		コントラスト調整
コントラスト 調整画面	ON	ディスプレイ点滅		押す	任意数値に調整
	ON	ディスプレイ点滅	押す		高度計調整画面
高度計 調整画面	ON	気圧・基準標高		押す	基準標高を 任意数値に調整
	ON	表示点滅	押す		スピードアラーム 調整画面
スピードアラーム 調整画面	ON	スピードアラーム	押す		50~130km/h
	ON	点滅		押す	アイドルストップ
アイドルストップタイム	ON	アイドルストップ	押す		開始秒数を調整
	ON	秒数表示		押す	Setup 画面終了
通常表示	ON	main menu	3 秒長押し	3 秒長押し	パワーテスト
パワーテスト 0-100km/h	ON	Time	押す		リセット
	ON	0-100km/h		押す	0-400m
パワーテスト 0-400m	ON		押す		Setup
	ON			3 秒長押し	メインメニュー
メインメニュー	ON	一般表示	3 秒長押し		アニメーション表示
	ON	アニメーション表	3 秒長押し		一般表示
メインメニュー アニメーション表示	ON	スタンダード表示	速度 ≥ Speed alarm		スピード表示
	ON	スピード表示	速度 ≤ 40km/h		スタンダード表示

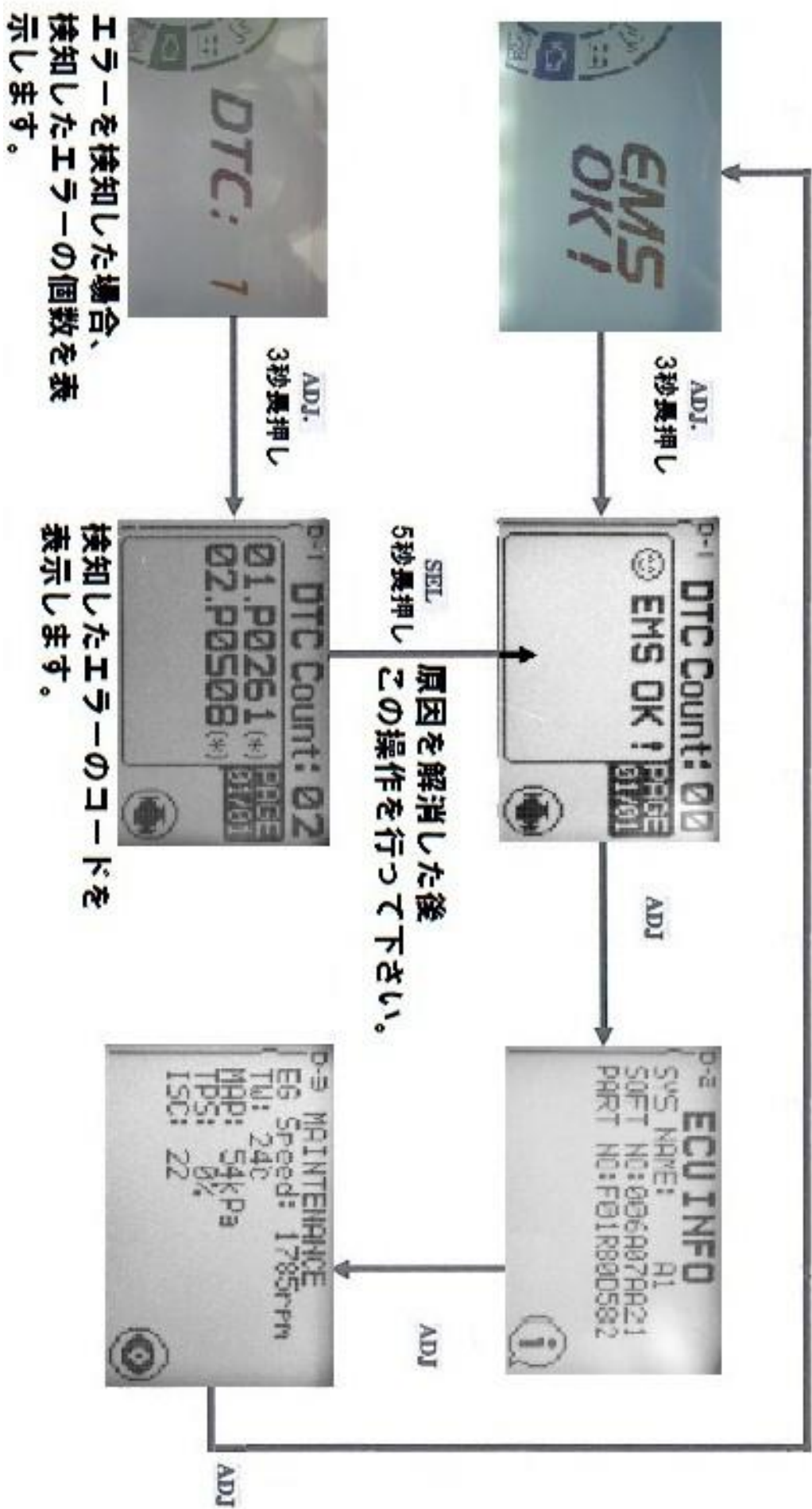
メニュー画面 切り替え



ページクモード



EMSインフォメーション サブメニュー



セツトアップモード



※ SETUP状態に移行してから何も操作しないと約20秒程で元のSETUP画面に戻ります。
この時、設定中の数値は保持されます。

パワーテストモード



ADJ



ADJ



ADJ とSEL を同時に3秒長押しすると
パワーテストモードに切り替わります。

ADJ ボタンを押すと開始します。

0-100 KM/h テスト

車両が動き出すと計測を開始します。

計測終了後、SEL ボタンを押すと数値が
リセットされます。

計測途中で止める場合 SEL ボタンを
押すと計測が止まります。

0-400m テスト

車両が動き出すと計測を開始します。

計測終了後、SEL ボタンを押すと数値が
リセットされます。

計測途中で止める場合 SEL ボタンを
押すと計測が止まります。

※ 計測画面から ADJ ボタン長押しして通常モードへ戻ります。

ハンドルスイッチ操作方法

1. HI/LO ビームスイッチ

“HI” HI・・・ハイビームがオンの状態です。

“LO” LO・・・ロービームがオンの状態です。

スイッチがLO側にあるとき、さらに下向きにスイッチを押すとパッシングさせることができます。

2. ターンシグナルスイッチ

ウインカーを出したい方向へスイッチを押し込むとウインカーを作動させることが出来、戻すときは中立の位置で真ん中のボタンを押すとキャンセルできます。

3. ホーンスイッチ

スイッチを押すことにより、ホーンを鳴らすことができます。

4. アイドルストップスイッチ

アイドルストップ機能を作動させるスイッチです。

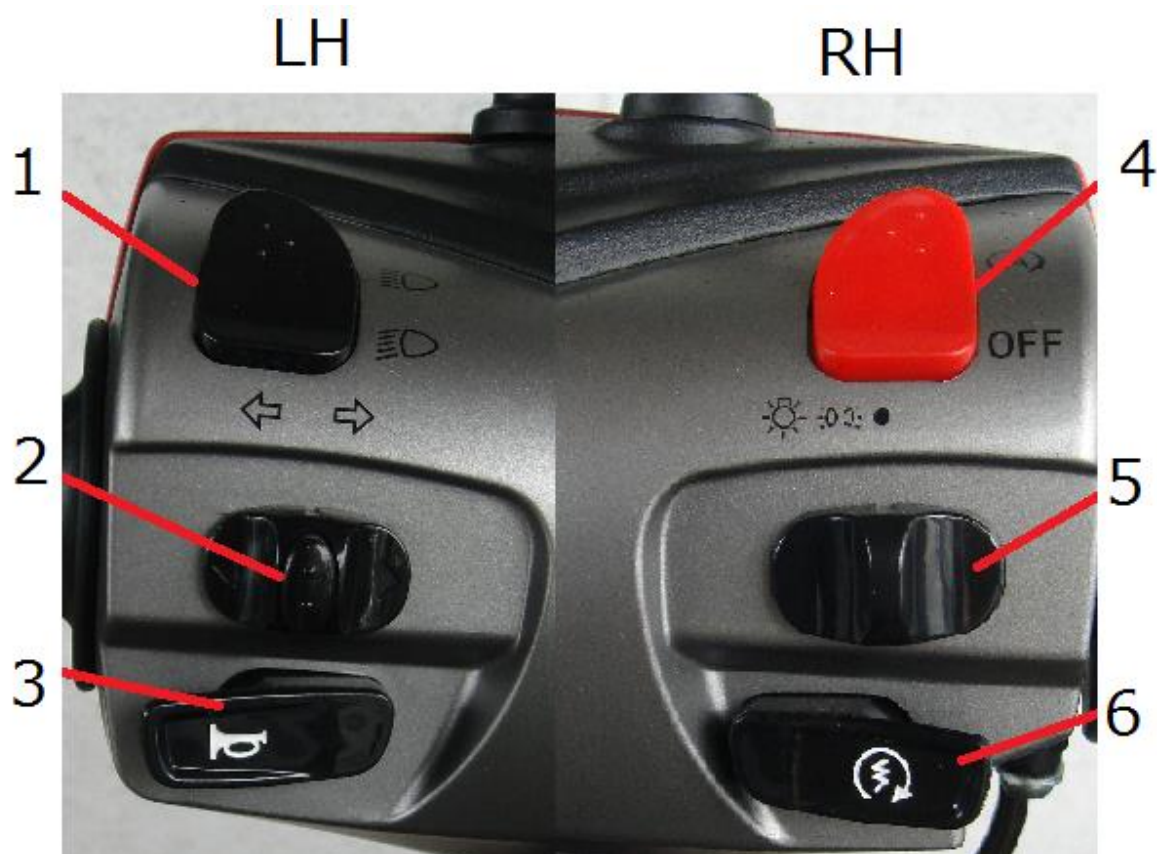
5. ヘッドライトスイッチ

ヘッドライトを OFF⇄ポジション⇄ON に切り替えるスイッチです。

日本仕様はヘッドライト常時点灯の為作動しません。

6. スターターボタン

エンジン始動させるボタンです、単独では作動しません、左右どちらかもしくは両方のブレーキを握りながら押すとエンジンを始動します。



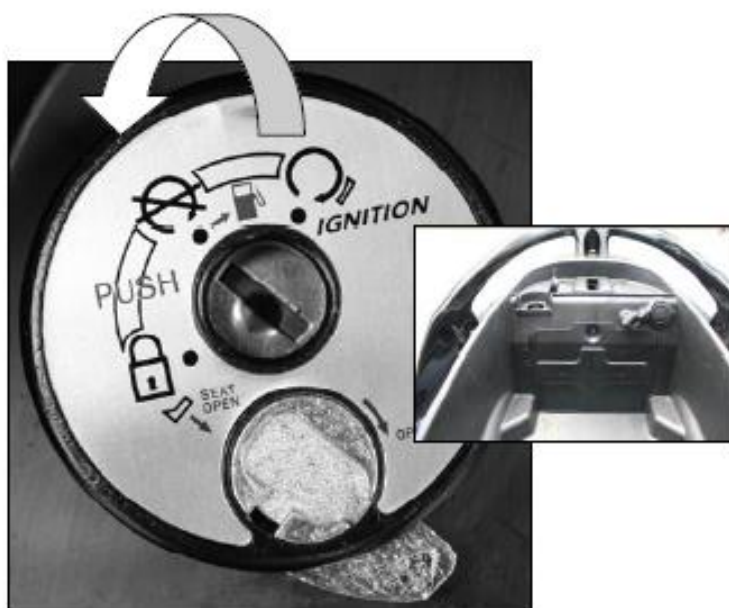
ハンドルロック

ハンドルロックを掛ける為には、まずハンドルを左に切り、次にキーを  の位置から  の位置に回す。もし回らない場合はハンドルを少し戻して行う。



シートロック

キーがどの位置からでも押しながら左にひねる事でシートを開けることが出来ます。



フューエルタンクキャップ

- キーを  オフの位置から押しながら右にひねるとフューエルタンクキャップを開けることができます。
- 閉める時は、キャップを上から押し込んでください。



盗難防止スイッチ・12V 電源

シート内後方に盗難防止スイッチと12V電源が装備されています。

盗難防止スイッチはOマーク側で作動しエンジンが掛からない状態になります。

車両から離れる時はOマーク側にしてからシートを締めて離れましょう。

メインキーONの時、Oマーク側からーマークにした場合は3秒程待ってから始動して下さい。

<注意>

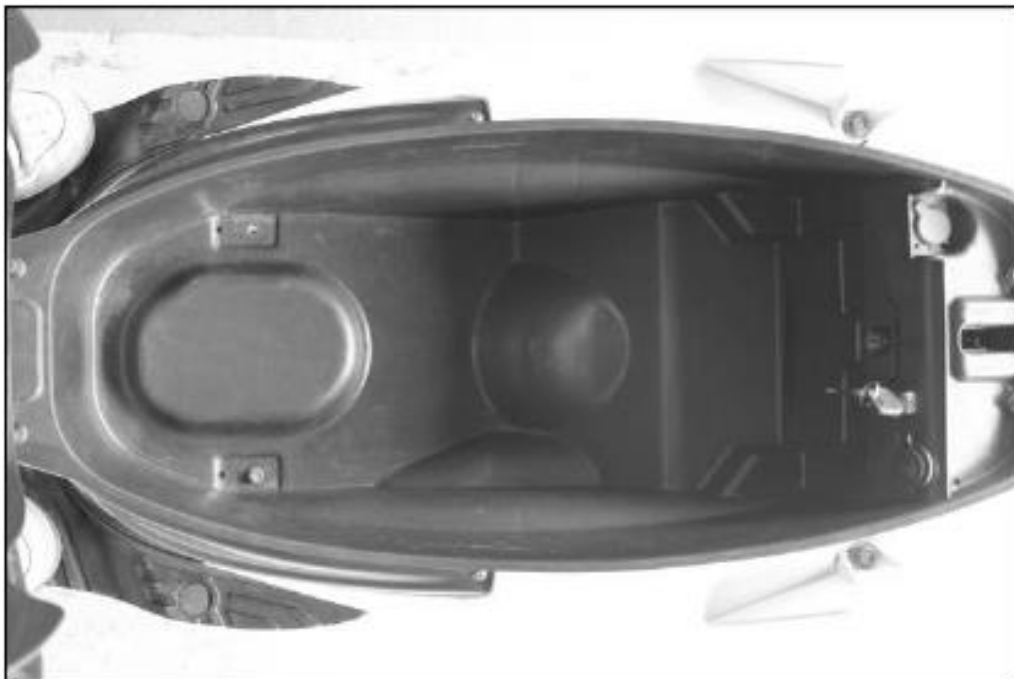
12V電源は1A未満までの消費電流でご使用下さい。

メインキーがONの状態でのみご使用頂けます、使用機器等を挿したままキーをONにすると突入電流が流れ通常使用時が1A未満の機器でもヒューズが切れる危険性がございますのでキーをONにする前には機器を外しておいて下さい。※いかなる使用状況においてもヒューズは消耗品のため保障対象には含まれませんので予めご了承下さい。



ラゲッジボックス

座席の下がラゲッジボックスになっています。



- ラゲッジボックス内の耐荷重は最大5 k g までです。
- 長時間エンジンが作動しているとラゲッジボックス内の温度が上がる場合がありますのでご注意ください。
- 壊れやすいものは入れないで下さい。
- 雨天や洗車などでボックス内に水が入る場合があります、防水性のある物で包むようにしてください。
- 車両から離れるときは必ずシートロックをご確認ください。
- ヘルメットはフルフェイスタイプも入りますがディフューザー等装備されているタイプでは入らない場合があります、無理に入れるとシートを閉めた際ヘルメットを破損する危険性も御座いますのでご注意ください。

※ヘルメット等を破損した場合、車両の保障では対応致しかねますので予めご了承下さい。

アイドルストップシステム

アイドルストップシステムが作動するには以下の条件を満たさなければなりません。

- ◆ アイドルストップスイッチが作動側に切り替わっている。
- ◆ バッテリーの電圧が 12.3 v 以上ある。
- ◆ 高度が 1000m 以下。
- ◆ エンジン冷却水温度が 78℃ 以上になっている。
- ◆ 時速 15 km 以上で走行した。
- ◆ 停車して完全に速度がゼロになっている。
- ◆ 設定した秒数を経過した。(初期設定は 3 秒)

上記条件を満たした時にエンジンが停止し、液晶画面に  マークとホッキョクグマの絵が表示されます。



エンジンの再始動方法

ブレーキを握った状態で軽くスロットルを開けるとエンジンが再始動します、ブレーキを握ってスタートボタンを押しても再始動が出来ます。

エンジンの再始動が出来ない操作

ブレーキを握った状態からでもスロットルの開け方が急に大きく開いた場合は飛び出し防止の為に再始動されません、また、そのような間違った操作が 3 回続くとアクセルでの始動が出来なくなるのでブレーキを握りながらスタートボタンを押してエンジンを始動する必要があります。この状態になるとアイドルストップシステムは以降作動しません、再度作動させる為には一旦メインキースイッチを **OFF** にしてエンジンを停止させ、再度エンジンを始動させる必要があります。

アイドルストップシステム作動時のヘッドライト光量コントロール

アイドルストップシステムが作動する条件が揃った状態で ECU は消費電力量を抑える為にヘッドライトの光量を 20 % にまで下げます。この時、ポジションランプ、テールランプ及びメーター照明等は光量に変化はありません。

アイドルストップシステム装備車両はアイドルストップシステムを作動させる・させないに関わらずアイドリングが一定時間続くとヘッドライト光量を 50 % に減光させます。

アイドルストップシステム作動時の 20 % への減光時とアイドリングが一定時間続いた時の 50 % 減光時にはヘッドライトの向きはロービームからハイビームへの切り替えは出来ません。

(ハイビームからロービームへの切り替えは可能です。)

ヘッドライトの減光が終了した時点で上下切り替えは通常に戻ります。

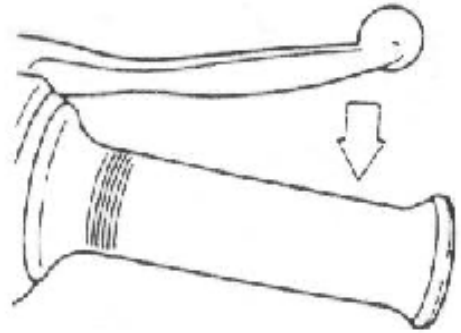
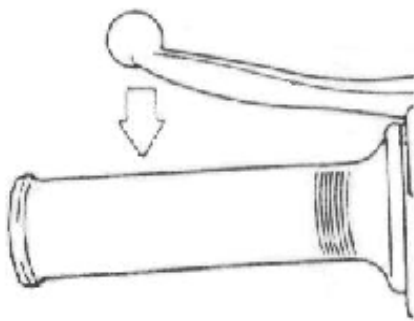
運行前点検項目

車両運行前に必ず以下の項目を点検下さい。

項目	点検内容	ページ
フロント・リヤ ブレーキ	作動、遊び、液量を点検し補充の場合は FMVSS DOT4 または SAEJ 1703 ブレーキオイルを補充してください。	20
スロットル グリップ	スムーズに作動するか点検し、必要であれば給油する。	25
タイヤ	空気圧と磨耗状態を点検する。	24
ケーブル類	スムーズに作動するか点検し、必要であれば給油する。	—
ブレーキレバー	スムーズに作動するか点検し、必要であれば給油する。	20
センタースタンド	スムーズに作動するか点検し、必要であれば給油する。	—
各部組みつけ	各部取り付け状態を点検し、必要に応じて増し締めや調整 を行う。	—
燃料タンク	残量を点検し、必要なら補充する、漏れが無いか点検する。	25
灯火類	点灯確認を行い切れているものは交換する。	—
油脂類	オイルレベルゲージでエンジンオイルの量と汚れを点検し必要なら ば交換する。メーター内インジケーターも点検すること。 ギヤオイルも点検する。 クーラントの量を点検し、必要ならば補充すること。	21・22

ブレーキ

1. ブレーキレバーには適切な遊びが必要です、約10～20mm遊びがあることを確認し、少なすぎたり多すぎたりする場合は、最寄りのPGO取扱店で点検を受けてください。
2. ブレーキを数回掛け、離れた時にホイールが軽く回るか点検する。
回転が重い場合はブレーキパッドの戻りが悪い可能性がありますので、最寄りのPGO取扱店で点検を受けてください。



フロントブレーキ

ハンドルを持ちレバーを握り機能していることを確認してください。
作動時に違和感がある場合は速やかにPGO取扱店で点検を受けてください。

＊ 運行前点検を怠ると何らかの不具合が生じる危険がありますので必ず点検を行い必要な修理、調整を毎日でも実行してください。

ブレーキフルード

ブレーキフルードの量はハンドルカバー横から覗き込むと点検窓により点検できます。

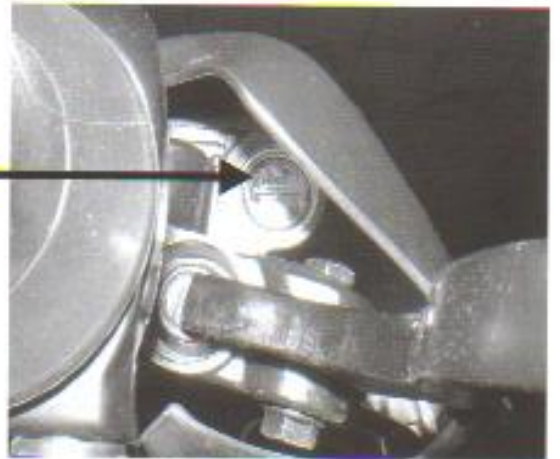
リザーバタンクを水平にしてから点検して下さい。

補充が必要な場合はFMVSS DOT4

またはSAE J1703の物を補充してください。

また、ブレーキホースやホース接続部分等に於いて液漏れを発見した場合は絶対に運行せず。

速やかにPGO取扱店で点検・整備を受けてください。



ブレーキパッド

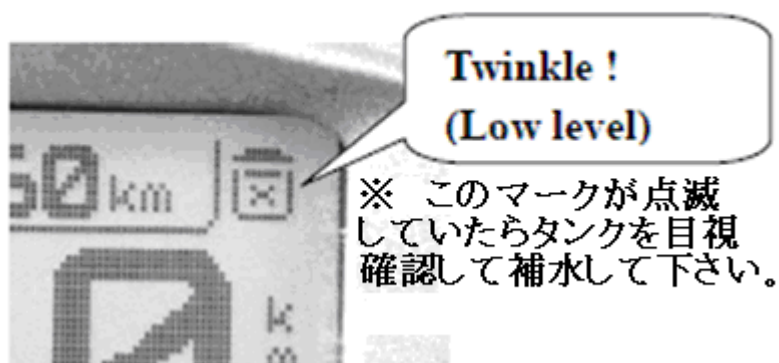
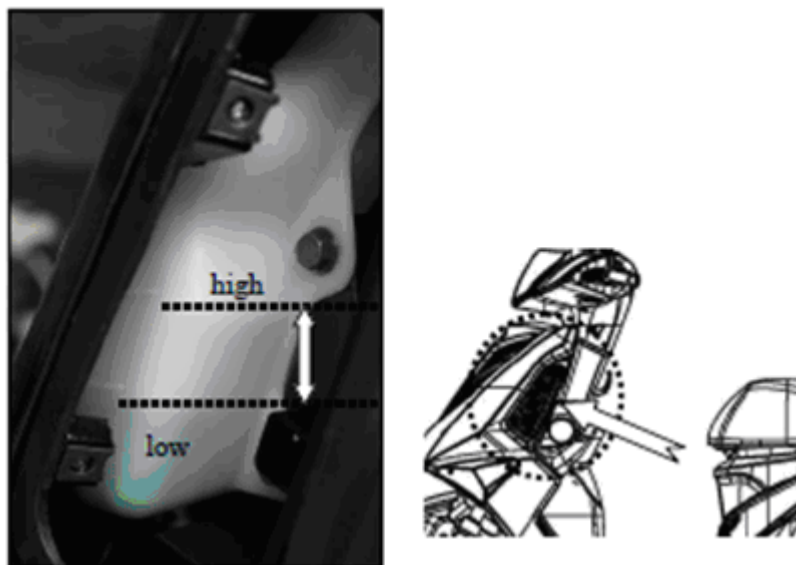
ブレーキフルードの減少及び握ったときの違和感はブレーキパッドが減ったことに起因する場合があります、速やかにPGO取扱店で点検を受けてください。

＊ ブレーキパッド交換は有資格者に委託してください。

冷却水量点検

1. 冷却水量点検

乗車前に必ず冷却水の量を目視とメーター内インジケーターで確認して下さい。



2. 冷却水補充

冷却水量が **LOW** レベル以上で **HIGH** レベル以下に補充して下さい。

冷却水は指定の希釈濃度を守って下さい、通常 30%以上 55%以下が目安です。

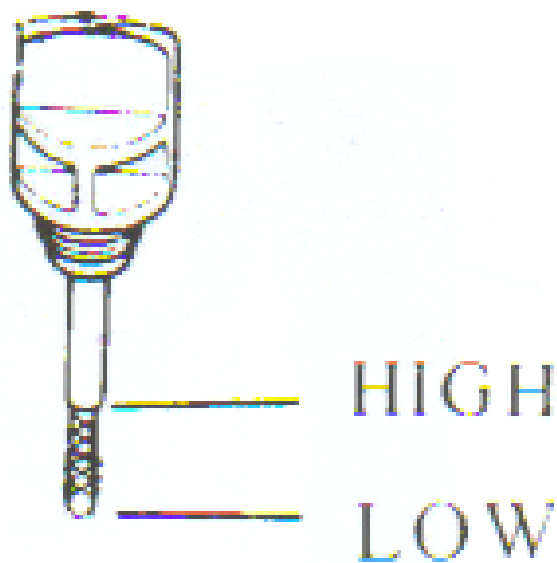
冷却水は 2 年毎に新しい冷却水に交換して下さい。



エンジンオイル量点検

4T エンジン

- エンジンオイルは初回 3 0 0 k m で、その後 3 0 0 0 k m 毎に交換してください。
- レベルゲージを使用する場合、必ずエンジン停止状態で行ってください。
- オイルレベル点検は平坦な場所で暖気後 2 ～ 3 分経ってから行ってください。
- オイルレベルゲージのロワレベル以下にならないようオイルを補充して下さい。
- オイルは SAE10w 40 をお使い下さい。
- 交換容量は 0.8L 全容量は 1.0L です。



※オイル交換推奨インジケータは1, 0 0 0 k m 毎に点灯します、予めご了承下さい。

エアクリナー

エアクリナーは空気中の埃を取り除きエンジンの磨耗度合い軽減に重要な部品です。常に清潔であるようにあなた自身もしくは PGO 取扱店で定期的なメンテナンスを行ってください。



ペーパーフィルターエレメント

タイヤ

タイヤの性能を保持し磨耗を抑える為に以下の点に留意してください。

1. 空気圧

空気圧は基準値を守りましょう。

※ 空気圧の測定は走行前に行い、外気とタイヤ内空気の温度差が生じない状態で測定してください。また、外部からの圧力も正確な測定の妨げになります。

空気圧の基準値は 前輪：2.0kg/cm² 後輪：2.0kg/cm² です。



空気圧が高い場合



空気圧が低い場合

2. 簡単な点検

乗車前にタイヤの外観を点検し過度の磨耗や釘など刺さっていた場合は、速やかに PGO 取扱店で点検・整備を受けてください。

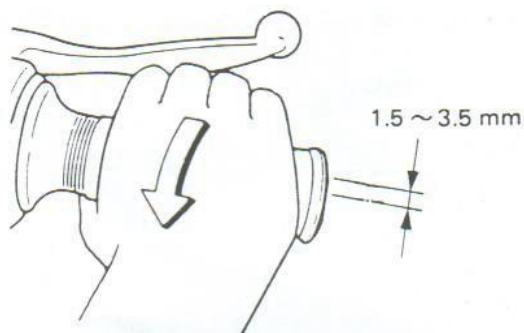
3. タイヤ溝の深さチェック

過度に磨耗したタイヤは大変危険です、溝の深さが十分ないと、泥や濡れた路面で顕著に滑ります。溝の深さを点検し0.8mm以下になったら速やかに交換しましょう。

スロットルグリップ

- スロットルグリップを操作し遊び量と作動状態を確認して下さい。
- 手を離れた時、速やかに元の位置へ戻るか確認して下さい。

調整方法は PGO 取扱店へお問い合わせ頂くか依頼して下さい。



灯火類

スイッチを操作し、すべてのランプ、バルブ、インジケーターが作動することを確認して下さい。

スイッチ類

スイッチを操作し、作動を確認して下さい。

燃料

燃料が十分にあるか確認して下さい。

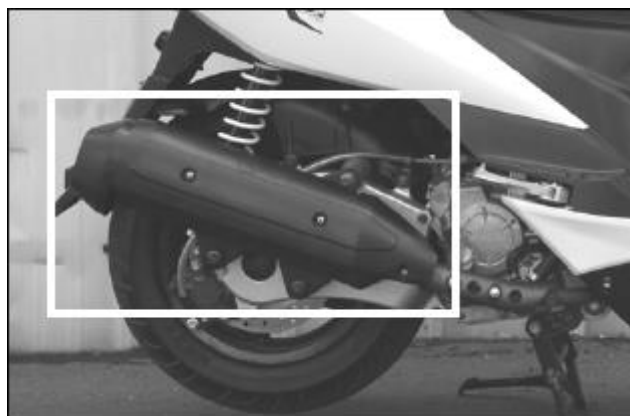
タンク容量は 6.8 L です。

※ 注意！

1. 燃料は無鉛ガソリンを使用して下さい。
2. 給油口の細くなっている部分までガソリンを満たさないで下さい、あふれてしまう危険性が有ります。

触媒

触媒は排気ガス中の有害物質を低減させる為の装置で、排気管内に設置されています。



1. 走行直後のマフラーは高温になり危険です、駐車する時は周りに燃えやすいものが無い事を確認し、なるべく歩行者などから遠ざけて駐車してください。
2. 燃料は必ず無鉛のガソリンを給油してください。
3. 走行中や空ぶかし直後にメインスイッチをオフにしないで下さい、未燃焼ガスが触媒を過度に加熱させ機能低下に繋がります。
4. 燃えやすい物の上での走行、駐停車はしないで下さい。
5. 常に良好なエンジン状態を保ち、異常燃焼で触媒を過度に熱を持たせないようにしてください。
6. 触媒が正常な作動を続ける為に、定期点検を心掛けてください。

乗車する際の注意事項

1. 乗車する前にすべての操作システム及び機能を把握してください。又、何らかの問題がある場合は PGO 取扱店にご相談下さい。
2. 締め切った場所でエンジンを掛けないで下さい。
3. 乗車前にサイドスタンドを必ず確認して下さい、サイドスタンドを出したまま走行すると大変危険です。

エンジン始動

1. エンジン RUN/OFF スイッチが RUN の位置にあることを確認し、メインキーを"○"の位置まで回してください。
2. EMS チェックランプが消えるのを確認後、スロットルグリップ**全閉**状態でブレーキレバーを握り、スタートボタンを 5 秒以内で押して下さい。



※ 注意！

エンジンが掛からない時でも、連続して 5 秒以上スタートボタンを押し続けしないで下さい、電気系統に過大な負荷が掛かり故障の原因になります。

暖機運転

エンジン保護の為に運行前に 1 ～ 3 分程度アイドリングをしてエンジンを暖機して下さい。始動直後で暖まらないうちに負荷を掛けないようにして下さい。

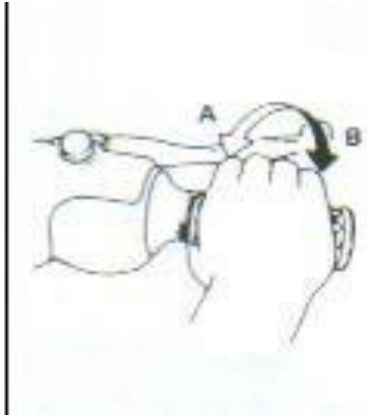
☆ 新車購入直後の場合は“P29 エンジンの慣らし運転”のページをよく読み、まず慣らし運転を行って下さい。

スクーターに乗るにあたって（暖機終了後）

1. リヤブレーキを握ったままセンタースタンドを上げてください。
2. 正しい乗車姿勢でシートに座り、バックミラーを調節してください。
3. 周りの交通状況を確認後、発車の合図を出してから発車しましょう。
4. ゆっくりスロットルグリップを操作し、発車出来たら合図を戻しましょう。

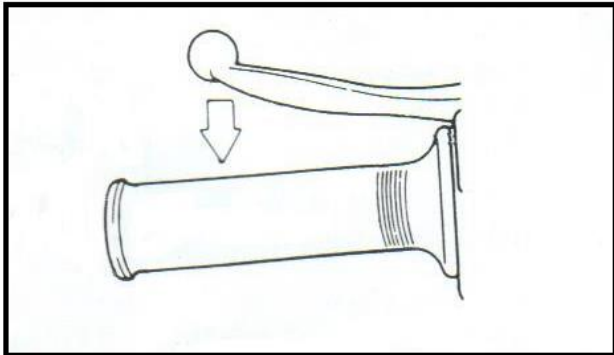
スロットル操作

スロットルグリップを手前に捻ると増速し、戻すと減速します。スムーズな操作を心掛けましょう。

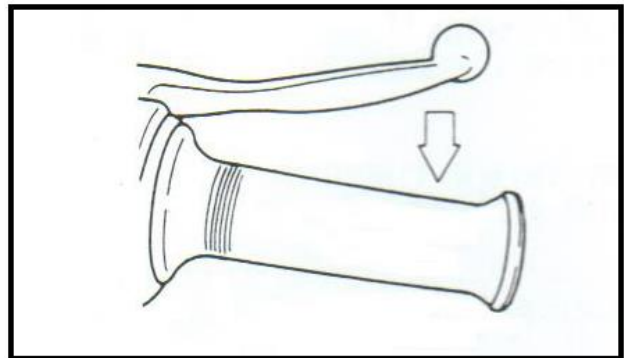


ブレーキ操作

1. スロットルグリップを戻して下さい。
2. 前後ブレーキをゆっくり握って下さい。



リヤブレーキ



フロントブレーキ

※ 注意！

1. 滑ったり、転ぶ恐れがあるので急ブレーキは避けて下さい。
2. 車体が傾いている時は特に注意して操作しましょう、不用意な操作は転倒等の原因になります。
3. 未舗装路やマンホール、濡れた路面等は滑りやすい為スピードを落としてください。
4. 濡れた路面や下り坂ではブレーキが効きづらくなります、余裕を持って減速して下さい。

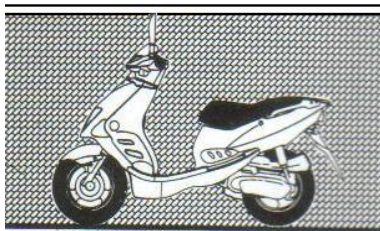
エンジンの慣らし運転

新車から 1,000 k m まではスクーターの寿命に一番影響する時です、1,000 k m を超えるまでは過大な負担を避け、出力の半分程度で走行しましょう。

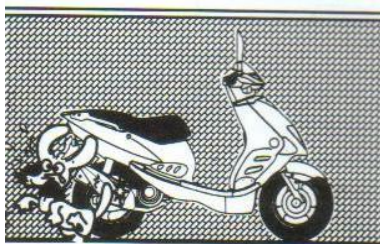
エンジン各部が適切なクリアランスを確保出来るように、過大な負担や急激な動作は避けましょう。

1. 0 ～ 1 5 0 k m スロットル開度は $1/2$ 以下にしてください。1 時間に 5 ～ 1 0 分程度エンジンを冷やすようにし同じ速度を長時間保持しないで、速度を変えながら走行します。
2. 1 5 0 ～ 5 0 0 k m 長時間スロットル開度 $1/2$ 以上で保持しないで下さい。
※ 3 0 0 k m で一度エンジンとギヤのオイルを交換して下さい。
3. 5 0 0 ～ 1,000 k m スロットル開度 $3/4$ 以下にしてください。
4. 1,000 k m 以上 長時間全開で走行しないようにして下さい。
※ 注意！ 慣らし運転中に何か問題が起きた場合、PGO 取扱店にご相談下さい。

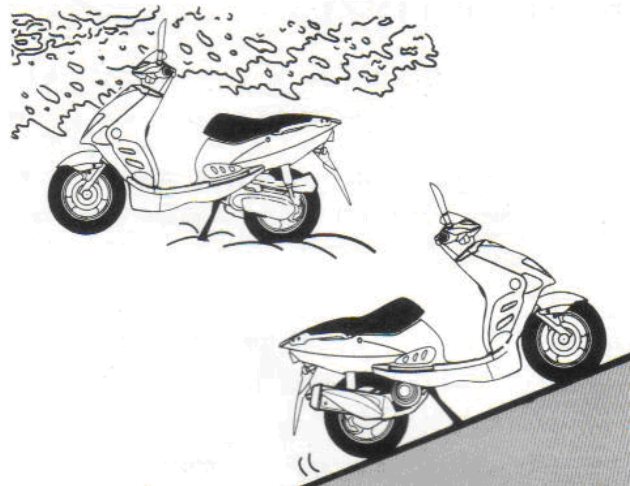
駐車



正しい止め方



誤った止め方



誤った止め方

※ 注意！ 走行直後はマフラーが非常に熱くなっている為、子供や歩行者から出来るだけ離して駐車して下さい。

坂道や地盤が不安定な場所は転倒する危険性がある為駐車しないで下さい。

定期点検

性能を維持し安全に運転をする為に、定期点検を励行し定められた期間に点検、調整潤滑油の補充・交換を行って下さい。

安全運転は運転者の義務です、メンテナンスと油脂類の補充は常に意識し、偶発的な事故以外の重要な予防措置と認識ください。

＊注意！ 舗装路の走行を目的にデザインされていますので、悪路や濡れた

路面を走行する時は、エンジンの消耗が早まるのでエアクリナーを頻繁に掃除して下さい。

点検や整備についてご不明な点がある時は、PGO 取扱店へお尋ね下さい。

定期点検スケジュール

項目	内容	定期点検と走行距離による点検						
定期点検月		1	3	6	9	1 2	1 5	1 8
走行距離		300	3000	5000	8000	10000	13000	15000
エンジンオイル* SAE10W40	交換（800cc） 全容量（1000cc）	○	3000 k m毎に交換。					
オイルフィルタ	交換	○	5000 k m毎に交換					
オイル ストレーナー*	清掃又は交換	○	3000 k m毎に清掃又は交換					
エアクリナー	清掃又は交換		○	○	○	○	○	○
ギヤオイル*	交換（90cc） 全容量（110cc）	○	○		○		○	
ブレーキ	作動と液漏れ点検		○	○	○	○	○	○
クラッチシュー*	点検又は交換		○	○	○	○	○	○
タイヤ	磨耗点検又は交換		○	○	○	○	○	○
車軸*	点検・増し締め		○	○	○	○	○	○
F フォーク*	機構及び液漏れ点検	○	○	○	○	○	○	○
ステムベアリン*	ガタ点検・増し締め			○		○		○

“*” マークの項目は PGO 取扱店にて点検・整備を依頼して下さい。

項目	内容	定期点検と走行距離による点検						
定期点検月		1	3	6	9	1 2	1 5	1 8
走行距離		300	3000	5000	8000	10000	13000	15000
サスペンション*	作動と液漏れ点検	○	○		○		○	
メイン・サイド スタンド	作動点検又は交換	○	○	○	○	○	○	○
各ボルトナット	緩み点検・増し締め	○	○	○	○	○	○	○
バッテリー	電圧点検・電極清掃		○	○	○	○	○	○
バルブ クリアランス*	冷間時に測定する IN・EX 共 0.08mm	必要であれば調整する。						
スパークプラグ*	清掃又は交換			○		○		○
V ベルト*	磨耗点検又は交換			○	A	○	A	○
フューエルフィーデ ィングシステム*	ホースのヒビとブ ロックの点検			○		○		○
アイドル回転数*	1700±100rpm	○	○	○	○	○	○	○

“*” マークの項目は PGO 取扱店にて点検・整備を依頼して下さい。

“A” マークの項目はエンジン性能が著しく低下している場合、点検又は交換して下さい。

※ エンジン保護の為に 300 k m 走行時のエンジンオイル・オイルフィルター・オイルストレーナー清掃・ギヤオイル交換を行って下さい。

※ ブレーキフルード交換

1. マスターシリンダー分解や、キャリパー分解時には新しいフルードを補充してください
2. 油量はこまめに点検して下さい。
3. マスターシリンダーとキャリパーのオイルシールは2年毎に交換して下さい。
4. ブレーキホースは4年毎に交換して下さい。

エキゾーストコントロールシステムのメンテナンス（触媒装着車）

1. 触媒は、燃料・イグニッション・インテーク／エキゾーストシステムを定期的にメンテナンスすることによって、触媒のメンテナンスとなります。
2. エアクリーナーを点検（31ページ参照）
3. スパークプラグの点検（31ページ参照）
4. 燃料システムの点検： フューエルパイプのひび、漏れの点検又は交換。
5. マフラー点検： 排気漏れを点検、必要ならばガスケット交換。
6. アイドリング点検

エアクリナー



4T エンジン

エアクリナー点検時にエアクリナーボックス内に多くホコリの蓄積が認められるような場合はエンジン出力の低下と燃料消費増大に原因があると考えられます、こまめに点検、清掃を行いましょう。

1. エアクリナーカバーを外す。
2. エアクリナーエレメントを外す。
3. 圧縮空気で汚れを吹き飛ばして清掃し、必要ならば交換する。
4. エアクリナーエレメントを元の位置に戻し、カバーを隙間が開かないように気を付けて取り付ける。

※ 注意！ エアクリナー分解中にエンジンを掛けないで下さい、ホコリ等がエンジンに吸い込まれ内部を傷付ける恐れがあります。

プラグの点検

スパークプラグはエンジンの重要な部品のひとつです。プラグの状態でエンジンの燃焼状態を知ることが出来ます、プラグの焼け色が薄茶色であればエンジンが良好な燃焼状態であることを表します。もし問題があれば PGO 取扱店にご相談下さい。

時間の経過と共に熱やホコリで腐食したり焼け焦げたりするので、ある一定期間で新しい物と交換して下さい。

純正指定プラグ： CR7E (NGK) プラグキャップ 0.6～0.7mm

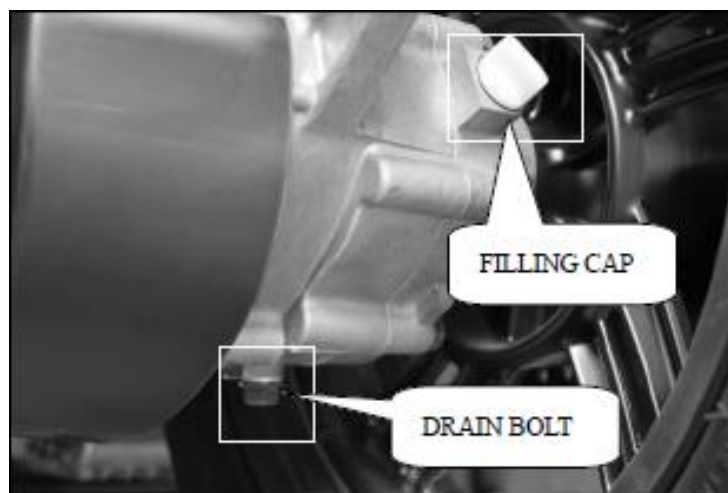
点検後は取り付ける前にねじ部とワッシャー部をきれいにしてから取り付けてください。

締め付けトルク： 1.2kg-m

もしトルクレンチが無い時は、手で回るところまでねじ込み、そこから1/4～1/2回転締め付け、後ほどトルクレンチで指定トルクで締め付けを行って下さい。

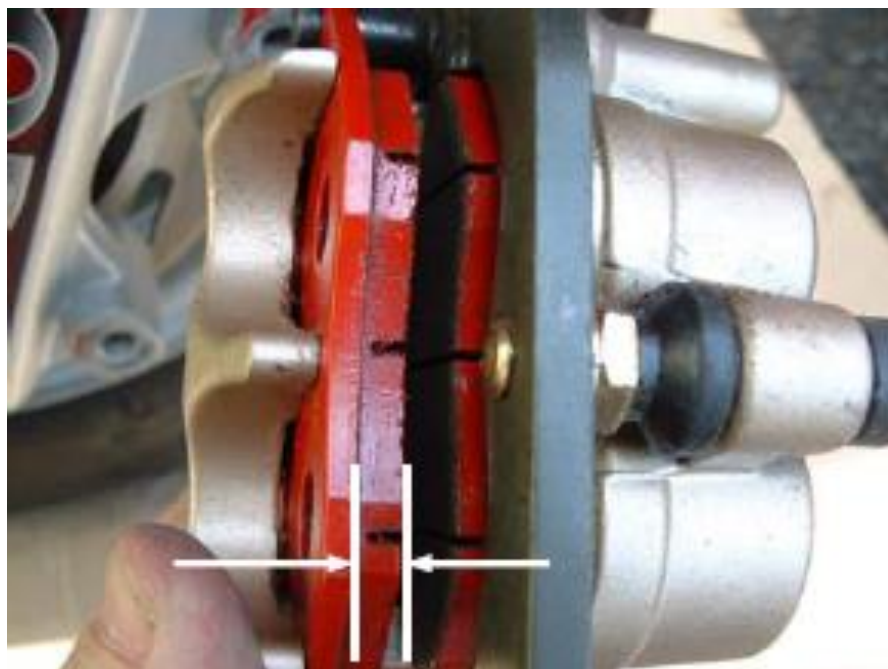
ギヤオイル交換

- 初回は 300 k m で、その後は 5000 k m ～6000 k m ごとに交換して下さい。
- 交換時容量：90 c c SAE140 全容量：110 c c



フロントブレーキ点検

フロントブレーキパッドの残量はパッドの溝の深さを見る事により点検することができます。パッドにある溝が無くなった時が使用限度です。



※ リヤブレーキも同様に点検を行って下さい。

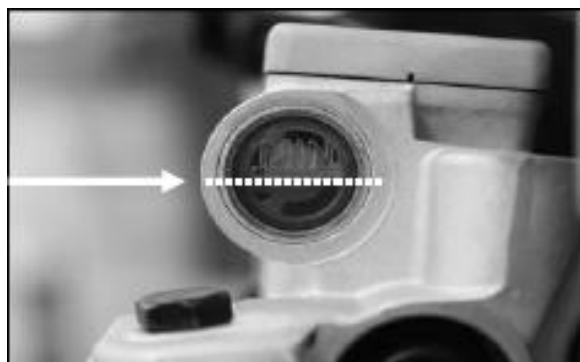
ブレーキフルード点検

リザーバタンク内のフルード液量が少ないとブレーキ液に空気が入る原因になります。ブレーキ液に空気が混入すると油圧が伝わりにくくなり制動力が著しく低下し危険です、こまめに液量を点検して下さい。

1. 液量点検時はリザーバタンクが水平になるようにハンドルを切ってください。
2. ブレーキフルードは必ず指定の規格品を使用して下さい、それ以外の使用はシール類を痛め液漏れの原因になります。

純正指定規格： FMVSS DOT4 or SAE J1703

3. 補充するフルードは同じ種類の物を使用してください、混ぜる事は避けてください。
4. マスターシリンダー内に水が入らないようご注意下さい、水が混ざるとフルードの沸点が下がり、フルード内に気泡を生じさせ大変危険です。
5. フルードは塗装面を侵食します、こぼしてしまった時は直ちに拭き取り水拭きして下さい。
6. ブレーキの整備は資格を持つ整備士に依頼して下さい。



フロントフォーク点検

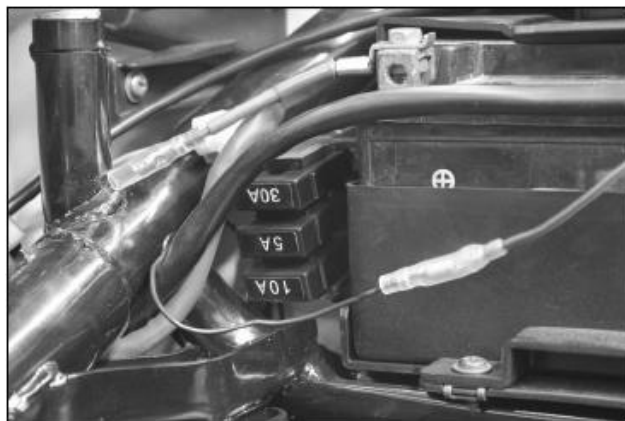
※ 注意！ アクシデント回避の為に、日常点検を励行して下さい。

1. 目視による点検
インナーパイプの傷、損傷、オイル漏れを点検する。
2. 作動点検
車両を平坦な場所でハンドルを持ちフロントブレーキを掛けたまま前後にゆすり、フォークの作動を点検する。



ヒューズ

1. ヒューズはシート下のラゲッジボックス後ろのカバー内にバッテリー等と一緒に収納されています。
2. シートを開け、カバーを外して下さい、バッテリーの側面に取り付けてあります。
3. ヒューズが断線している場合はメインスイッチを **OFF** にして、ヒューズが切れた原因を解消してからヒューズを交換して下さい。もしヒューズ交換後メインスイッチをオンにして再びヒューズが断線する場合は **PGO 取扱店**にご相談ください。



※マイナス端子側側面にラゲッジボックス内 12V 電源用 1A ヒューズがあります。

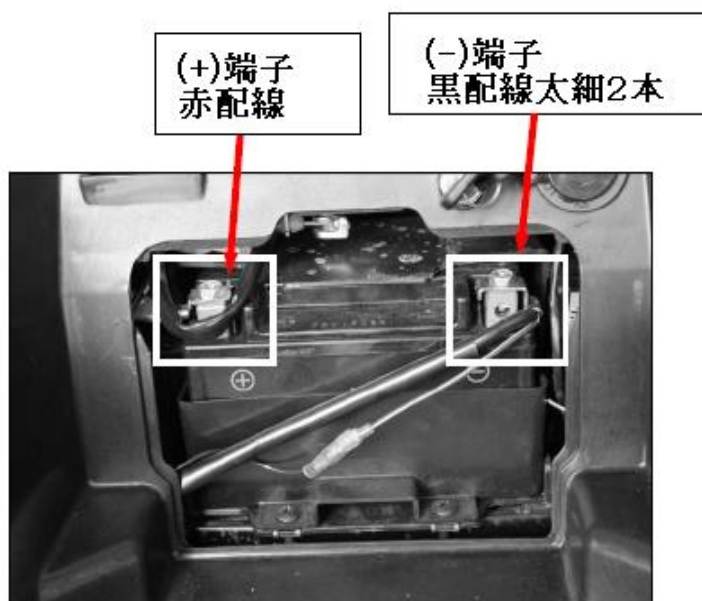
※ 注意！ ヒューズの定格アンペアより大きいアンペアのヒューズを使用しないで下さい。
定格アンペア以上のヒューズを使うと配線に強いダメージを与え、発火の原因となり大変危険です、正しいヒューズをお取り付け下さい。

バッテリー

バッテリーはメンテナンスフリータイプなので液量の点検及び補充は必要ありません。
万一バッテリー液が漏れている場合は、至急使用を中止して **PGO 取扱店**にご相談下さい。

※ 注意！

バッテリーのシール（ふた）を取る事は絶対にしないで下さい、バッテリーを損傷させる恐れがあります。



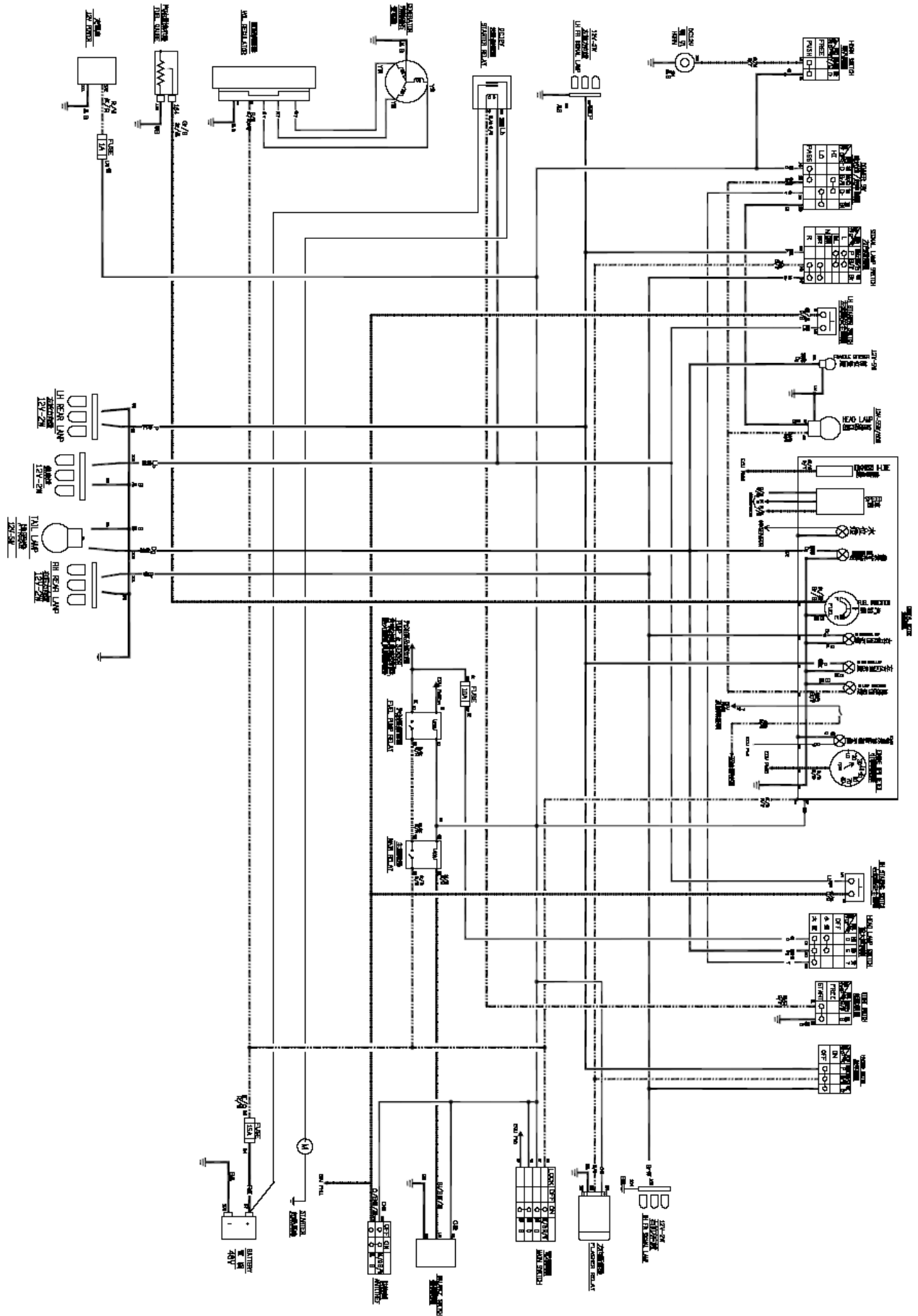
AF-180BIE 主要諸元

車名			P G O		フレーム		スチールチューブ				
形式			AF-180BIE		サスペンション		フロント		テレスコピック		
外形寸法	全長		1865 mm				リヤ		ユニアブソーバー		
	全幅		710 mm		トランスミッション	1次減速		0.82~2.38			
	全高		1140 mm			2次減速		42/15*42/13			
	車軸間距離		1300 mm			クラッチ		遠心クラッチ			
重量	車体重量	前輪		55 kg		タイヤ		前輪		110/70-12	
		後輪		82 kg				後輪		130/70-12	
		合計		137 kg							
	乗車人員		2 (150KG)		ブレーキ	前輪		ディスク			
	総重量	前輪		99 kg		後輪		ディスク			
		後輪		188 kg		スピードメーター		デジタル式			
		合計		287 kg		灯火類	ヘッドランプ		12V-55W		
ギヤオイル	SAE 粘度		SAE140		リヤランプ / ナンバー灯		12V-0.4W/12V-5W				
	交換容量		90cc		ブレーキランプ (LED)		12V-2W				
	全容量		110cc		ウinkerランプ (LED)		12V-2W/12V-2W				
ENGINE	型式		A6		ホーン		DC 12V				
	燃料		無鉛ガソリン		マフラー		触媒式				
	サイクル/冷却方式		4 ストローク/ 水冷式		排気	粒顆物質		15 %未満			
	シリンダー	ボア		φ 61.0mm		CO		3.0%未満			
		ストローク		58.0 mm		HC		1600 ppm 以下			
		気筒数		単気筒		排気方式		右後方排気			
	排気量		169.5 c. c.		潤滑方式		圧送飛沫式				
	圧縮比		10.4 : 1		フローバイ還元装置		採用				
	最高出力		12.5kW/8500rpm		E. E. C. 方式		採用				
	最大トルク		15.6N-m/7000rpm		触媒		装備				
	エンジン様式		ホリゾンタル		FUEL TANK	CAPACITY		6.8 L			
	点火方式		CDI/DIODE								
	始動方式		セルフスタート		バッテリー		T T Z 1 0 S				
	潤滑方式		圧送飛沫式		スパークプラグ		CR7E				

定期点検記録簿

計画 Km	実行 Km	日付	販売店サイン
3 0 0			
1, 0 0 0			
2, 0 0 0			
3, 0 0 0			
4, 0 0 0			
5, 0 0 0			
6, 0 0 0			
7, 0 0 0			
8, 0 0 0			
9, 0 0 0			
1 0, 0 0 0			
1 1, 0 0 0			
1 2, 0 0 0			
1 3, 0 0 0			
1 4, 0 0 0			
1 5, 0 0 0			
1 6, 0 0 0			
1 7, 0 0 0			
1 8, 0 0 0			
1 9, 0 0 0			
2 0, 0 0 0			
2 1, 0 0 0			
2 2, 0 0 0			
2 3, 0 0 0			
2 4, 0 0 0			
2 5, 0 0 0			

配線図



保 証 書

お買上げ頂いたお車を構成する各部品に材料または製造上の不具合がおきた場合、この保証書に示す期間と条件に従って、下記の保証修理を致します。

一. 保証範囲：

1. 保証内容 お車を取扱説明書に従った整備をおこない正常に使われている上で万一、部品に材料または製造上の不具合がおきた場合、無料修理いたします。（保証修理は部品の交換もあります）（以下この無料修理を保証修理といいます）。 尚、取外した部品は弊社の所有となります。
2. 保証期間 新車を登録または届出した日から 1 年間もしくは走行距離 15,000 km までのいずれか早い方までが保証期間となります。
3. 保証対象 PGO 日本代理店：（有）ナーベルフォースが販売する PGO ブランドスクーターで、販売店が（有）ナーベルフォースにユーザー登録を行っている車両。

二. 保証修理の受け方：

保証修理をお受けになる場合は、お車とこの保証書をお買上げの販売店へお持ち下さい。これにより保証修理を致します。※提示されない場合は、保証修理をいたしかねます。

各販売店様は販売後速やかにユーザー登録を PGO 日本代理店：（有）ナーベルフォースにして下さい。

三. 保証できない事項：

1. 次に示す事項は保証修理いたしません。
 - (1) 時の経過で発生する不具合（塗装面等の自然退色、メッキ面などのさび、消耗品の劣化等）
 - (2) 機能上影響のない感覚的現象（音、振動、オイルのにじみ、結露やくもり等）
 - (3) 地震・台風・水害等の天災・事故・火災に起因する不具合
 - (4) 純正部品及び指定する油脂類（オイル・ブレーキ液・冷却液等）以外の使用に起因する不具合。
 - (5) 煤煙・薬品・鳥糞・塩害等に起因する不具合
 - (6) レース・ラリーなどによる酷使或は一般に車輛が走行しない場所での走行に起因する不具合。
 - (7) 法令に違反する改造及び弊社の認めていない改造に起因する不具合
 - (8) 盗難にあったお車
 - (9) 無免許運転に起因する不具合
 - (10) 保管又は整備不良に起因する人為的な不具合
 - (11) 業務車両として使用された車両
2. 次に示す費用は負担いたしません
 - (1) 消耗部品の費用（ライト類・ゴム類・ワイヤー類・ネジ類・ピストン・スパークプラグ・ワッシャー類・ブレーキパッド・ブレーキライニング・V型ベルト・ヒューズ・など）
 - (2) 油脂類・燃料・バッテリー液などの交換補充の費用
 - (3) お車を使用出来なかった事による不便さ及び損失など（電話代・レンタカー代・休業補償・営業損失等）
 - (4) 車輛修理に伴うレッカー代
 - (5) PGO 純正部品であっても本来使われている部品以外の転用も改造になり補償対象から外れます

四. 保証修理をお受けできない事項

1. 法令及び取扱説明書に示す取扱方法と異なる使用方法及び弊社が示す仕様の限度（最大積載量・乗車定員）をこえて使用した場合
2. 下記の点検整備を実施していなかった場合
 - (1) 乗車前の点検
 - (2) 弊社の指定する定期点検
3. 定期点検整備記録簿を保持していなかった場合
 - (1) 定期点検整備記録簿を大事に保管してください

五. 保証の発効

この保証書は、お買上げ頂いた正規販売店が保証登録書に必要事項を記入、捺印することにより有効となります。

六. 保証の継承

保証期間が残っているお車をお買上げの際は、ご購入後、直ちに正規販売店へお車と保証書をお持ちになり、名義の書換え、必要な点検（有料）と必要事項の記入、捺印をお受け下さい。これにより残りの期間を保証いたします。

七. 保証の適用

この保証書は、日本国内で販売し使用されることを前提としております。従って海外へ持出す場合は、その時点で保証が打ち切りとなりますのでご注意ください。

- ＊ この保証書は、本書に明示された期間と条件をもとに無料保証をお約束するものです。この範疇を超えたものに関しては、原則として有償となります。

PGO SCOOTER 日本代理店
有限会社 ナーベルフォース
お問合せ先：
埼玉県戸田市美女木 7-15-6
TEL：048-449-0021 FAX：048-449-0022